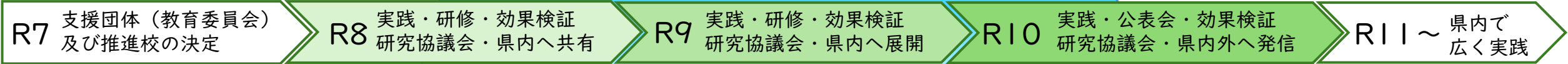


異学年集団による学び合い支援事業

◇ 目的

- ・ 意図的及び計画的に「異学年集団による学び合い」に取り組む学校を所管する市町村教育委員会を支援する。
- ・ 非認知能力（自己肯定感、自己有用感、コミュニケーション能力等）、認知能力（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等）の伸長を検証する。

◇ 年次計画



◇ 概要

※イラストは、Microsoft Copilotにより作成



【取り組む内容】

- ・ 3つ以上の異なる学年に属する児童生徒で集団を編成する。
- ・ 国語、社会、算数・数学、理科、生活科、外国語活動・外国語（英語）から1教科以上を選定する。
- ・ 年間10単位時間以上の学習活動を実施する。
- ・ 3年間継続し、学校公開、校内研修等を通じて効果を検証し、実践を広く共有する。

【異学年集団による活動で期待される効果】

非認知能力の伸長

○特別活動等を通して

- ・ 目標に向けて努力する
- ・ 仲間と協力して取り組む
- ・ 違いを受け止め認め合う 等



認知能力の伸長

○教科の授業を通して

- ・ 計画的に学習を進める
- ・ 自分の考えを説明する
- ・ 複数の情報を比較して判断する 等



【算数・数学で期待される効果の例】

数学的な見方・考え方を働かせ、見通しをもって学習に取り組む力が高まる。

《上学年》

下学年に説明することで、数量や図形についての理解を深め、数学的に表現する力が高まる。

《下学年》

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、粘り強く学習に取り組む態度が高まる。